

茨城県国際理解教育推進協議会
会長 石川 哲夫 殿

ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

団体名 医療法人葛会 担当者名 真鍋 幸恵 / 廣木 とよ子

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。

記

実施日時	平成22年5月12日(水) 18:30~20:30
実施場所	介護老人保健施設いちご苑 6階大小会議室
参加者と人数	医療法人葛会職員 65名、メサフレンドシップ 4名 合計 69名
派遣講師名と出身国	オレリアン・バロン フランス出身・男性・県国際交流員
活動の内容	<p>国際協力活動や自国の文化に関する講演を行ってもらい、国際理解や国際貢献の重要性を知るということで国際交流会を開催しました。</p> <p>18:40 ○オープニングセレモニー(ウェルカムフラダンス) ハイビスカスチームによる歓迎のフラダンス(アンコール)</p> <p>18:50 ○理事長挨拶 バロンさんに歓迎の言葉、フランスの社会情勢(自給自足等)について イヴモンタン(シャンソン歌手)について</p> <p>19:00 ○バロンさんタイム 自己紹介(名前の由来、出身地紹介、来日のきっかけ、職業、お子様のお話) フランスについて(国旗の色の意味) フランスの大学病院について(VTR3本+コメディVTR) 質疑応答(職員より12名程)</p> <p>20:40 イツアスモールワールド合唱</p> <p>20:45 バロンさんのかけ声による一本締め</p>
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスの看護師さんも日本と同じに不足しており、また賃金も労働に見合わない額で不満を持っている看護師さんも多いということで共感しながら映像を見ることができました。 ・フランスの医療現場でのコメディは、日本と比べてリアルさを感じられたので、すごく面白かった。 ・フランスの名前の由来には、色々な意味が入っていることを聞き、実際親になって子供に名前をつけるときにすごく悩みそう。 ・同世代の講師で、質問で恋愛のお話も聞くことができたので親しみが持てた ・質問で好きな日本食は?と聞いたときに、きれいな食べ物の方が見つけやすいとのことだったので、改めて日本の食文化に誇りを感じました。(ちなみに、こんにゃくは独自の味をもたず消しゴムのような食感で、納豆は栄養があるというもの、臭いが馴染めず受け付けないとのことでした(笑)。なるほど食文化の違いがあると思いました。) ・赤ちゃん(子供さん)は、『水戸市内の〇〇産婦人科で産まれたんだよ!〇〇産婦人科はいいよ!』と。葛会の職員も2人程お世話になっている産婦人科さんでより好感がも

	<p>てました (安心)。 ・子供さんのことを大変熱心にご紹介頂き、パパ (父親) の愛情が伝わりました。また、生まれた場所 (国) が反映された naming で、日本も大切な国となり嬉しく思いました。</p>
<p>担当者の感想</p>	<p>この度は、『看護の日を意識したテーマ』でとご無理申し上げお詫び申し上げます。そして、専門外にもかかわらず、医療情勢に関する映像や資料等を積極的に入手していただき、ユーモアを交えながら私達のニーズに応じて下さったバロンさんに心から感謝申し上げます。</p> <p>バロンさんは、今回の講演を、疲れを感じさせない分かりやすい日本語のみで話してくださいました。笑顔、拍手、手拍子等、その場の雰囲気への対応にもバロンさんのお人柄の良さが窺え豊かな人間性にも感激いたしました。また、今回のテーマや苦手な食材の内容からも理解できるように、未知のことや苦手なことから逃避せずに、チャレンジし一生懸命学習した結果を伝えて下さった姿勢には大きな感動を覚えました。</p> <p>今、置かれている立場を大切にしながら、未開発の課題にチャレンジしていくことを諦めてはならないと感じました。そして、私達は専門職としても、バロンさんのような豊かな感性を鍛え、大きな世界に向かって今の仕事を堂々と伝えて行くべきではないかと刺激を受けた講演でもありました。</p> <p>あるプロトコルの賢人の言葉に、『マナーという美は、もっともっと輝く世界が広がる』がありますが、生まれ育った環境や文化の違いがあっても、相手を思いやる心、もてなす心がマナーという形で表現され、その誠意がお互いに伝わり合えれば、国境を越えて豊かな人間関係が広がって行きます。また今年、4 回目の国際交流会もそのような素敵な出会いの機会をいただきましたことに、ワールドキャラバン関係者の皆様、例年ご協力ご支援頂いております川瀬様はじめ野上様、中野様ご夫妻、メサフレンドシップの皆様に心より感謝申し上げます。</p>

